

一九九九年の創業以来、手掛けたM&A(企業の合併・買収)案件は約百八十件。企業が買収、譲渡を検討する際、相手となる企業探しや価格設定などをサポート。山梨県内で手掛けた案件もある。仕事の原動力は「企業の大部分を占める中小企業が強くならない」ば、国力は強くない」との思いだ。

早大卒業後の六二年、野村証券に入社。ブラジルが「二十一世紀の国」と注目されていた七三年には証券業界で初めて南米に常駐し、ブラジルをはじめとする中南米各国の政府債、政府機関債などの引き受けを担当した。

ブラジルでは同社創立五十周年を記念した大規

TOKYO企業情報会長

新田 喜男さん



西桂町出身。谷村高一早大法学部卒。1962年に野村証券入社。野村・バブコック・ブラウン常務取締役、野村企業情報常務取締役・専務取締役などを歴任。定年退職後の99年、TOKYO企業情報を創業し社長に就任、2004年から会長。東京都世田谷区在住。69歳。

させた。米国・ニューヨークに赴任していた八七年十月十九日には、世界的な株価の大暴落「ブラックマンデー」に遭遇。日本の証券会社の幹部によるブラジル視察から戻った翌日込みながら、はつらつとした地域になってほしい」との思いがわいてくる。毎日午前六時半に自宅を出て、地下鉄に乗り、同七時十五分ごろには出社する。メールのチェックに始まり、顧客との面談を繰り返す。夜には社員のミーティングに顔を出すこともしばしば。もうすく七十歳。「野村」時代と変わらぬ生活に、既に一線を退いた友人からは「体のためにも、いかげんにしたらどうだ」と声を掛けられる。「そろそろかな」とは思う。だが、仕事をしない生活はまだ考えられない。「将来を担う若手を育てるのも自分の使命」。今はそう言い聞かせている。

M&Aで中小企業強化

模な農場開発に参画。東が、農業振興を目指して京都の世田谷、杉並、目黒の三区の合計面積に匹敵する広大な土地を買い、有機質が少ない農地の改良、農業技術の開発、普及を進めた。「ノムラ」の研修生の受け入れ、日本企業の売り込みなど中国・北京への事務所開設にも尽力。中国から「東京との近さを生かし、もっと大都市の活力を取

った・よしおさん 西桂町出身。谷村高一早大法学部卒。1962年に野村証券入社。野村・バブコック・ブラウン常務取締役、野村企業情報常務取締役・専務取締役などを歴任。定年退職後の99年、TOKYO企業情報を創業し社長に就任、2004年から会長。東京都世田谷区在住。69歳。



〈保阪 有〉